

# 喜界島小野津方言のアクセント調査報告

上野, 善道

---

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

26

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

15

(発行年 / Year)

2002-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012554>

# 喜界島小野津方言のアクセント調査報告

上野善道

**【要旨】** 小野津方言アクセント調査の中間報告を行ない、従来の説と異なる3型アクセントであるという見通しを述べる。併せて、崎村弘文論文の語彙リストを用いて氏と同じ話者を含む3人を相手に行なった調査資料を提示し、氏との相違点についても触れる。

**【キーワード】** 小野津方言 3型アクセント 語音

## 0. ねらい

奄美方言の一つ、鹿児島県大島郡喜界島方言のアクセントについては、1979・80年と1992年以降の数次にわたる調査をもとにこれまで私は下記の一連の報告を行ってきた。拙文(1993;1995;1997;1998)、および上野・西岡敏(1994)である。そして、拙文(1999;2000)においてそのうちのいくつかの方言のアクセント体系を明らかにするとともに、上野・西岡(1995)では活用形における通常相と継続相のアクセントの別について考察をした。

しかしながら、アクセント体系を取り扱ったのは湾方言・中里方言・荒木方言、そして佐手久方言などで、喜界島のもう1つの特徴的なタイプである小野津(おのつ)方言と志戸桶(しとおけ)方言については正面から取り上げてこなかった。それはこの2方言の調査資料が不十分だったためであるが、調査継続の目処がいたので現段階での中間報告を行なって今後の補訂に備えることにした。近刊の拙論で小野津方言の付属語のアクセントを取り扱ったので、本稿はその続編となる。

小野津方言の場合、その調査が他の喜界島諸方言よりも遅れていたのは、私自身の怠慢の他に、2人の話者のうちの1人は普段あまり方言を使っておらず誘導による答えが非常に多かったこと、もう1人は明瞭に方言を保持していたが多忙でなかなか調査時間の調整が付かなかったことによる。そのため、論としてまとめるところまでは至らずにいるうちに時が流れ過ぎ、1人は他界され、もう1人も高齢のため調査が困難になってしまった。

幸い、2001年の夏の調査で新しい話者が見つかり、その3人の資料を比較してみたところ実質的に一致していると判断されたので、中間報告に踏み切ることにした。

## 1. 調査の概要

話者は(1)の3氏である。いずれも小字でいうと「神宮」(かみや)のご出身である。

### (1)話者情報 (数字は生年)

富崎盛義氏(1916), 故台司三代二(たいしみよに)氏(m.1918), 大畑倫(のり)氏(f.1927)

今回発表するのは、崎村弘文(1985:88-90)にある体言項目である。既発表の拙文と重複する項目も多いが、拙文では扱っていないものもあるので崎村論文のすべての項目を取り上げることにした。ただし、実際には数項目の調査漏れがある(省略したものもある)。崎村氏の話者は(1)の台司氏で、私の調査(1993年)と同じかたである。そして台司氏は、服部四郎(1979)の話者もつとめている。ただし、服部論文の小野津方言にはもう1人の話者の名前も出ており、すべての項目を台司氏に確認したかどうかは不明である(3.2参照)。

## 2. アクセント体系

### 2.1 先行研究

小野津方言のアクセント体系は、崎村弘文(1985:83)では(2)のような「2型アクセント」であるとされていた。( )は語例未見の印。

#### (2)崎村氏による小野津方言のアクセント体系

	1	2	3	4
a	○～●△	●○～○●△	○○●～◎○○●△	◎○●○～◎○○●△
b	(●～○▲)	○●～◎○▲	◎○●～◎○○▲	◎○○●～◎○○○▲
	5	6		
a	◎○○●○～◎○○○●△	◎○○○●○～◎○○○○●△		
b	◎○○○●～◎○○○○▲	(◎○○○○●～◎○○○○○▲)		

ここに、a類は「語句の末尾から2番目のモーラ高」、b類は「語句の末尾モーラ高」で、全体として「鹿児島市方言のそれに大変よく似た体系である」と規定され、「両類の長い語句に第1モーラ持ち上がりの傾向が認められるが、現在のところ音韻論的には意味の無いものと見て良いようである」という注記が付いている。

なお、服部四郎(1979)は、氏の考える2拍名詞祖体系の類の統合の仕方が考察の対象で、2拍語の範囲に限られており、共時的なアクセント体系は取り扱われていない。

## 2.2 私の調査報告

私の調査では小野津方言は2型アクセントではなく、(3)のように $\alpha/\beta/\gamma$ の「3型アクセント」と見られる。以下には、中で一番詳しく調査した富崎氏のデータを中心に、台司氏 [T] と大畑氏 [O] のものも加えて示す。特に、5拍以上の長い形は大畑氏による。表記法は私の一連の奄美方言の報告と同じで、音韻的な配慮をした簡略表記である。すべてキーボードから入力できるようにしてある。なお、重起伏調の語頭の方の高まりは「中」で記録してあるものも多いが、対立はないので「高」にまとめて表記した。

## (3)小野津方言のデータ

$\alpha$ 「Kwa (子)	「Kwa」nga (～が)	
「Cji」:	「Cji」:nga	cf.「Cji」:nga [T,O]
「mI」zu (水)	mI「zu」nga [sic.]	
Ki「nju」:	Ki「nju」:nga	Ki「nju」:nga [T,O]
ta「Ta」mI (畳)	ta「Ta」mInga	sji「rusji」nga (印が) [T]
「ga」ra「sa」:	「ga」ra「sa」:nga	「ga」ra「sa」:nga [T,O]
*「CV」CV「CV」CV——实例未见		
「'i」ruzji「ru」: (色白)	「'i」ruzji「ru」:nga	「has」sa「ngI」:nga (髪が) [T,O]
「ha」Tata「Ta」Ki (肩叩き)	「ha」Tata「Ta」Kinga [O]	
「ta」maguja「Ki」: (卵焼き)	「ta」maguja「Ki」:nga [O]	
「mu」Kasjiba「na」sji (昔話)	「mu」Kasjiba「na」sjinga [O]	
$\beta$ —	—	
ti「: (手)	「ti」:nga	
na「bI (鍋)	「na」bI「nga	
「sa」Ta「: (砂糖)	「sa」Ta「nga	
「ha」Ta「na (刀)	「ha」Tana「nga	「pasa」mi「nga (鋏が) とも [T]
「'u」Tunge「: (頤)	「'u」Tunge「nga	
「mu」Cjigu「mI (もち米)	「mu」Cjigu「mInga [sic.]	「mu」Cjigu「mI」nga [O]
「ta」maguze「: (卵酒)	「ta」maguze「nga [O]	
「cji」Karamu「Cji (力持ち)	「cji」Karamu「Cji」nga [O]	
$\gamma$ —	—	
—	—	
「Fu」suka (二日)	「Fu」sukanga	

「'i'sji' usu (石臼)            「'i'sji' usunga  
 「'i'sji' aTama (石頭)       「'i'sji' aTamanga [O]

崎村氏との主な違いは、 $\gamma$  型の存在の他に、 $\alpha$  系列の個別の型の認定にもある。それを(4)に下線を付して示す。ここでも、崎村氏に合わせて重起伏調は◎で統一した。

#### (4) 崎村論文との相違点

崎村報告	私の調査
●○～○●△のCVV (CVCVは一致)	●○～●○△ [富崎] , ~●●△ [T,O]
○●○～◎○●△	○●○～○●○△ , ~○●●△ [T]
◎○●○～◎○○●△	◎○●○～◎○●○△ , ~◎○●●△ [T,O]
◎○○○●○～◎○○○●△	◎○○○●○～◎○○○●○△ [O]

(4)の私の調査資料の3氏は、同じ体系と認められる。ともに最初の●, すなわち単語の末尾から数えて2拍目(-②)に「昇り核」/l/があり、その後ですぐ下降するタイプとそれが後ろにずれるタイプの差があるに過ぎない。(β系列の例であるが、台司氏の「親指が」の形を、言い切りでは-[bI]nga., 接続形は-[bInga...と記録していることも参照。)

台司氏が崎村氏の調査の時にどのような発音をしたのか知る由もないが、崎村氏の報告は、下降の遅れるタイプの形を東京方言のように下降に着目してその直前のみを「高」ととらえた、という可能性もないとは言えない。

(4)の他にも、相違点として

(5)「da」: (おまえ)      da「nga (おまえが)      da「ja (おまえは)

という、長さの点でもアクセントの点でも特異な形がある。これは3氏とも一致しており、崎村氏は●○～○●△としている項目である。

### 2.3 課題

以上から、2型アクセントでないことは確実であるが、私の調査結果にも問題がないわけではない。(3)は「3型アクセント」と言っても、その内部はなかなか複雑である。大局的には、

(6)  $\alpha$  型は-②型,  $\beta$  型は@型,  $\gamma$  型は①型

と見ている——あるいは、それぞれΛ型、V型、\型の可能性もある——が、その型の所属にも一部不確定の部分がある。たとえば、1拍語(Kwa)はα型としておいたが、γ型である可能性もある。β型では、「mu」Cjigu「mI(もち米)」と「cji」Karamu「Cji(力持ち)」が問題となりうる。助詞が付いても、語末の「高」が動かないからである。4拍語の場合は、語末が-CVからなるα型が見つかっていないことと関係しているものと考えられる(αとβが規則的なアクセント変化で合流した可能性がある)。しかし、5拍語はそうはいかない。それに加えて(5)の特殊な例もある。

一般のN型アクセントは付属語がアクセントをもたず、拍数を増やしてそれが付く名詞の型を展開させるだけであるが、この方言はそのような特徴を示さず、付属語の付いた形を系列の手がかりとするわけにはいかない、という問題がある。これが型の所属認定を難しくしている要因である。また、近刊拙論で述べたように、同じ拍数であっても単一の付属語か付属語連続かで振る舞いが異なるという現象も見られるし、当該拍が特殊拍か通常拍かも関与する(特殊拍は絶対語末以外では「高」を担えない)、ということも問題を複雑にしている。さらに調査検討を進めたい。

### 3. 調査資料

#### 3.1 調査資料の読み方

私の調査資料はこの後の表に掲げるが、その読み方は次のとおり。

最初の●○表記は崎村氏のもので、その下に並んでいるそのアクセント型を取る項目の見出しの役割を果たす。(4)で取り上げた認定の異なる型については[※]を付けておいた。一部は疑問として[?]を付した。項目の読みは私に付した。次が項目で、その横に、調査をした順に台司氏、富崎氏、大畑氏のデータを並べる。項目の順番は原文のまま。

崎村氏のデータそのものは示さなかった。その音声表記が入力・印刷に困難を伴うものであること、および、全部を引用することに問題があるかもしれないと考えたことによる。崎村氏の報告と食い違う項目には、(7)の星印を付けた。(台司氏以外にも付した。)

#### (7)崎村氏との相違点の印

- ★はアクセント型の認定が異なるもの
- ☆は語音の認定が異なるもの
- ★☆はアクセントと語音の両面で食い違っているもの

対象としたのは音韻レベルで問題となると判断したものだけで、それ以外の微細な差異は取り上げなかった。「桃」の2拍目の-mu:のuを鼻母音としている点などがそれで、ことさら表記する必要のないものと考えるが、調査に立ち会っていない以上、こういった類には

星印を付けなかった。従って、無印が私の観察・表記と完全に一致するとは限らない。

### 3.2 崎村論文との語音の相違点

崎村氏との観察の相違点は、いくつか整理できる。

まず、アクセントについてはすでに全体的なことは述べた。個々の単語の型の食い違いについては具体的に別表資料の★印を見ていただくしかない。

次に、語音の聞き取りの相違点は、1) ngV[ŋV] (いわゆる鼻濁音)、2) 語頭の' (声門閉鎖音)、3) I(laxの中舌母音)、4) Cu[tzu] (= [ts'u]) と zu、5) 語頭の da の前鼻音 (入りわたり鼻音) の有無、に集中している。以下、(8)に順に例をあげる。( ) は台司氏以外の場合で、厳密には星印の対象外であるが、台司氏の形も誘導による可能性が残る。

#### (8) 語音の相違点

##### 1) ngV[ŋV] に関するもの

ニ(nji) をキ°[ŋi] としている例：釘, 鬚

鼻音の前後の [g] を [ŋ] としている例：孫 (語頭は [m-]) (, 鏡, 流れ), 垢 (cf.背中) [ŋ] を ['] としている例：あご

その他、特に印を付けなかったが、極く普通の [ŋV] で良いところを、「白髪, 犬, 雀」等々のほとんどにおいて [ŋ] を上付きで記し、母音を鼻母音としている。

以上はすべて、氏の母語に鼻濁音が存在しないところから来ているに違いない。

##### 2) 声門閉鎖音に関するもの

[u] を [wu] としている例：夫 (, 帯), 踊り, おじ, おば, 姉妹, 大人, 女 (, 牡牛)

##### 3) [I] に関するもの

[I] を [i] としている例：飴, 嫁, 指 (ただし, 大畑氏は [i]), 雨, 陰, 助け, 初め, 杖 (, 帯), 眉, 白髪, 髪, 鼠, 親指——両唇音・軟口蓋音の後の例が多い

4) Cu [tzu], zu を [tu] [du] ——そり舌音の意か? ——としている例：爪, 水, 鶴, 夏, 顔, 靴 (, 月), 綱, 松, 斧, 頭 (頭蓋骨), 老人

5) [da] を前鼻音があると聞いている例：おまえ, おまえたち

ただし、4) だけは、服部四郎(1979)の記述に気になる点がある。同論文では、ツに対応する音声は(9)のようになっているからである。その他については、同論に記載のある限り——事実上、1) と3) の数例であるが——、私の記録と一致する。

## (9)服部(1979)の記述

ma[tzu (松), tzu[ju (露), ts'u[na (綱), [tzu]ru (蔓,弦), [tsu]mI (爪) ;  
t'u[ra (面=顔), [na]t'u (夏)

すなわち、「松」から「爪」までは tzu ないし ts(')u で私の調査と一致するものの、「面(つら)」と「夏」は t'u で、むしろ崎村氏に近い点である。あるいは服部氏が対象とした2人の話者の違いかとも疑われるが、t'u が台司氏であったとしても、崎村氏の調査までそれを保ち、それから10年足らずで tzu に変わったということになり、謎と言うしかない。

## [引用文献]

- 上野善道(1993)「喜界島方言の体言のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』  
21:41-160
- (1995)「喜界島方言の活用形と複合名詞のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』23:151-236
- (1997)「喜界島方言の活用形のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』25:95-189
- (1998)「喜界島方言の漢語のアクセント資料」, 角田太作編『少数民族言語調査報告1998』:83-93
- (1999) "Classification of Japanese Accent Systems", in S.Kaji (ed.) Proceedings of the Symposium 'Cross-Linguistic Studies on Tonal Phenomena, Tonogenesis, Typology, and Related Topics', ILCAA, Tokyo:151-186
- (2000)「奄美方言アクセントの諸相」『音声研究』4/1:42-54
- (近刊)「喜界島諸方言の付属語のアクセント」
- 上野・西岡敏(1994)「喜界島方言の用言のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』  
22:161-312
- (1995)「喜界島方言の動詞継続相のアクセント」法政大学沖縄文化研究所『琉球の方言』18・19合併号:145-163
- 崎村弘文(1985)「喜界島方言のアクセント体系」『鹿児島大学文科報告』21/1:81-92
- 服部四郎(1979)「日本祖語について21,22」『月刊言語』8/11:97-107,8/12:100-114

【附記】ご教示下さった(1)の話者の方々に厚く御礼を申し上げる。この調査は、文部省科学研究費一般研究C, 同基盤研究C, および日本学術振興会科学研究費基盤研究Cによった。整理に際しては、福井玲氏ならびに田野村忠温氏開発のソフトをそれぞれ利用した。

## 別表 アクセント資料

読み	項目	台司氏	富崎氏	大畑氏
○～●△				
コ	子	「Kwa」	「Kwa」	「Kwa」
クサ	草	「sa」	「sa」	「ssa」
アシ	脚 (足)	「Fja」 (F=p)	「pja」	「Fja」
●○～○●△ [※]				
チ	血	「Cji」;「Cji:」nga★	「Cji」:	-
ト	戸	「tu」;「tu:」nga★	「tu」:	-
ナ	名	「na」;「na:」nga★	「na」:	-
ハ	葉	「Fa」:(F=p);「Fa:」nga★	「pa」:	-
アメ	飴	「'a」mI☆;「a」mI」nga	「'a」mI☆	-
ウシ	牛	「'u」sji	「'u」sji	-
カゼ	風	「ha」zji	「ha」zji	-
クギ	釘	「Ku」nji☆	「Ku」nji☆	「Ku」nji☆
クチ	口	「Ku」Cji	「Ku」Cji	-
クビ	首	「Ku」bi;「nu」bI「:	「Ku」bi	-
コシ	腰	「hu」sji (後ろ)	「Fu」sji	-
サケ	酒	「se」:(焼酎);「se:」nga	「se」:(焼酎)	-
ソコ	底	「su」Ku;「su:」nga	「su」Ku	-
ソデ	袖	「su」di	「su」di	-
タケ	竹	「de」;「de:」nga	「de」:	「de」:
ツメ	爪	「Cu」mI☆	「Cu」mI☆	「Cu」mI☆
トリ	鳥	「tu」i;tu「i」nga	「tu」i	-
ハエ	蠅	「Fe」;「Fe:」nga	「Fe」:	-
ハコ	箱	「pa」Ku	「Fa」Ku	-
ハチ	蜂	「pa」Cji	「pa」Cji	-
ハナ	鼻	「pa」na (p=F)	「pa」na (p=F)	-
ヒゲ	髯 (鬚)	「pi」nji (産毛以外)☆	「pi」nji☆	「Fi」nji☆
ヒモ	紐	「pi」mu	「pi」mu	-
ヘソ	臍	「Fu」su	「pu」su	-
ホシ	星	「Fu」sji	「pu」sji	-

読み	項目	台司氏	富崎氏	大畑氏
ミズ	水	「mI」zu☆	「mI」zu☆	「mI」zu☆
ミチ	道	「mi」Cji	「mi」Cji	-
ムシ	虫	「mu」sji	「mu」sji	-
ヨメ	嫁	「ju」mI☆	「ju」mI☆,ju「mI」:☆★	「ju」mI☆,ju「mI」:☆★
イシ	石	「i」sji	「i」sji	-
ウタ	歌	「u」Ta	「u」Ta	-
オト	音	「u」Tu	「u」Tu	-
カミ	紙	「ha」bi	「ha」bi	-
タビ	旅	「ta」bi	「ta」bi	-
ツル	鶴	「Cu」ru☆	<m>「Cu」ru☆,tu「i	<m>「Cu」ru☆
ハタ	旗	「pa」Ta	「pa」Ta	-
ヒジ	肘	「Fi」zji	Fi「zji★	Fi「zji★
ムネ	胸	「mu」nI	「mu」nI	-
フユ	冬	「Fu」ju (F=p)	「Fu」ju (F=p)	-
ムラ	村	<m>「mu」ra	<m>「mu」ra	-
ナツ	夏	「na」Cu☆	「na」Cu☆	「na」Cu☆
ハシ	箸	「pa」sji (梯子の意),ti「mu」Tu	「pa」sji	-
アネ	姉	「ba」:	「ba」:,「ne」:	「ba」:(母親の意も)
イド	井戸	「ha」:	「ha」:	-
クワ	鍬	「Kwe」:_?	「Kwe」:☆	-
シオ	塩	「ma」su	「ma」su	-
ツマ	妻	「tu」zji	「tu」zji	-
ユビ	指	「ju」bI☆,「wI」:「bI	「ju」bI☆	「ju」bi [sic.]
オット	夫	「u」Tu☆	「u」Tu☆	「u」Tu☆
スモー	相撲	「sji」ma	「sji」ma	-
カンナ	かな	「ha」na	「ha」na	-
オマエ	おまえ	「da」:☆,da「nga」[sic.]	「da」:☆,da「nga	「da」:☆,da「nga

○●~◎○▲

キ	木	hI「:,「hI」:「nga	hI「:	-
テ	手	ti「:	ti「:	-
メ	目	mI「:	mI「:	-
ユ	湯	ju「:	ju「:	-

読み	項目	台司氏	富崎氏	大畑氏
ハ	歯	pa :	pa :	-
アミ	網	'a mi	'a mi	-
イケ	池	'i ki	'i ki	'i ki
イロ	色	'i ru	'i ru	-
ウマ	馬	'u ma	'u ma	-
オヤ	親	'u ja	'u ja	-
カオ	顔	Cu ra☆	Cu ra☆	Cu ra☆
カミ	神	<m>ka mi	<m>ka mi	-
カメ	瓶	ha mI	ha mI	-
クツ	靴	Ku Cu☆	Ku Cu☆	<n>Ku Cu☆
クモ	雲	Ku mu	Ku mu	-
コメ	米	hu mI	hu mI	-
シマ	島	sji ma	sji ma	-
ツキ	月	?	Cu Ki☆	Cu Ki☆
ツナ	網	Cu na☆	Cu na☆	Cu na☆
トキ	時	<m> tu Ki	<m>tu Ki,- du Ki	<m> tu Ki_?
トシ	年	tu sji	tu sji	-
ナミ	波	na mi	na mi	-
ハカ	墓	pa Ka★	Fa Ka★	Fa Ka★, ti ra(寺)とも
ハナ	花	pa na	pa na	-
マメ	豆	ma mI	ma mI	-
ミミ	耳	mi mi	mi mi	-
モノ	物	mu N	mu N	-
ヤマ	山	ja ma	ja ma	-
ユメ	夢	'i mi	'i mi	-
ワタ	綿	wa Ta(腸,腹)	wa Ta(腸,腹)	-
アト	跡	'a Tu	'a Tu,ma i	-
イキ	息	'i Ki	'i Ki	-
イタ	板	'i Ta	'i Ta	-
イト	糸	'i Cu :;,'i Tu	'i Cu :;,'i Tu	'i Cu :;,'i Tu
ウス	白	'u su	'u su	-
ウミ	海	'u mi	'u mi	-
カタ	肩	ha Ta	ha Ta	-

読み	項目	台司氏	富崎氏	大畑氏
シル	汁	sji「ru	sji「ru	-
スミ	隅	「su「mi★	「su「mi★	「su「mi★
ソバ	側	#su「ba	su「ba」:☆	-
タネ	種	ta「nI	ta「nI	-
ナカ	中	na「:	na「:	-
ハリ	針	pa「i	pa「i	-
フネ	舟	Fu「nI(==骨)	Fu「nI	-
マツ	松	ma「Cu☆	ma「Cu☆	ma「Cu☆
オビ	帯	'o「bi☆	-	'u「bi,<普>'o「bi
アセ	汗	'a「sji	'a「sji	-
アメ	雨	'a「mI☆	'a「mI☆	'a「mI☆
カゲ	陰(蔭)	ha「ngI☆	ha「ngI☆	ha「ngI(影)☆,「ha「Ta「:(蔭)
コエ	声	ku「i	ku「i	-
ナベ	鍋	na「bI	na「bI	-
マエ	前	mE「:	mE「:	mE「:
モモ	腿	mu「mu	mu「mu	-
チチ	乳	Cji「:	Cji「:	-
イワ	岩	sji「:	sji「:(瀬)	<聞>sji「:
ゴミ	ごみ	gu「mi	gu「mi	-
シタ	舌	su「ba	su「ba	-
シリ	尻	ma「i	ma「i	-
スス	煤	su「su	su「su	-
ツチ	土	mi「Cja	mi「Cja	-
ドロ	泥	du「ru	du「ru	-
ニク	肉	sji「sji	sji「sji	-
ハラ	腹(腸)	wa「Ta	wa「Ta	-
ヨル	夜	ju「ru	ju「ru	-
アス	明日	'a「Cja	'a「Cja	-
タスケ	助け	tak「KI☆	tak「KI☆	tak「KI☆
アブラ	油	!'a「b「ba,!'ab「ba「nga	!'a「b「ba	!'a「b「ba
ナミダ	涙	na「da	na「da	-
マクラ	枕	mak「Ka,!'mak「Ka「nga	mak「Ka	mak「Ka
クスリ	薬(薬品,滋養食)	su「i	su「i	-

読み	項目	台司氏	富崎氏	大畑氏
クジラ	鯨	!Ku z zja,!Kuz zja nga	!Ku z zja	!Ku z zja
カカト	踵	'a du	'a du	-
カズラ	蔓	had da	had da	-
キモノ	着物	Ki N (古)	Ki N (古)	-
ワタシ	わたし	wa N	wa N	-
タイヨウ	太陽	ti da	ti da	ti da

## ○●○~◎○●△ [※]

カタチ	形	ka ta Cji,ka taCji nga	-	ka ta Cji
シルシ	印	sji ru sji	sji ru sji	sji ru sji
ハジメ	初め	pa zji mI☆	pa zji mI☆	Fa zji mI☆
ヨダレ	涎	ju da i	ju da i	ju da i
オドリ	踊り	'u du i☆	'u du i☆	'u du i☆
キノー	昨日	Ki nju :,Ki nju: ja	Ki nju :,Ki nju: ja	Ki nju :
アニ	兄	jak KI :(先輩の意も),a nji	-	jak KI :(特に自分の長男)
ウデ	腕	gu te :,'u di	gu te :,'u di	gu te :
オイ	甥	!wu ik Ka	!wu ik Ka,mIk Ka	wu ik Kwa[sic.]
オジ	おじ	'u zji :☆	-	'u zji :☆
オノ	斧	zu mja :☆	-	zu mja :☆
オバ	おば	'u ba :☆	-	'u ba :☆
ソフ	祖父	'a zji :	-	'a zji :
チチ	父	'a zja :	-	'a zja :
ツエ	杖	[gu sa ni ,gu sanI nga★☆	[gu sa ni ★☆☆	[gu sa ni ★☆☆
ヒザ	膝	Cu bu sji	-	Cu bu sji
マゴ	孫	ma go :☆	ma go :☆	ma go :☆
ミギ	右	nji nji :☆	-	nji nji :☆
メイ	姪	!mI ik Ka	-	[mI :k Kwa☆
モモ	桃	mu mu :	mu mu :	mu mu :
カエル	蛙	bi Kja :	-	bi Kja :
ケムリ	煙	hji bu sji	hji bu sji	hji bu sji
ケイシ	兄姉	sji za ☆★	sji za ☆★	sji za ☆★,sji za :☆
シマイ	姉妹	'u na i☆	-	'u na i☆
テイマイ	弟妹	'ut Tu :	'ut Tu :	'ut Tu ☆,'ut Tu :

読み	項目	台司氏	富崎氏	大畑氏
フンドシ	褌	-	-	ma「wa」sji
コノアイダ	このあいだ	hu「ne:」da☆nja「N」ma	-	nja「N」ma (,hu「ne:」da他 所で主に)

## ◎◎● (●◎◎) ~◎◎◎▲

クサリ	鎖	!ku]sa「ri,「kusa」ri「nga「ku」sa「ri		「Ku」sa「ri
カガミ	鏡	!ka]nga「mi	!ka]ga「mi☆	「ka」ga「mi☆
ハサミ	鋏	!pa]sa「mi	!pa]sa「mi	「Fa」sa「mi
タワラ	俵	!ta:]「ra	!ta:]「ra「	「ta:]「ra
ナガレ	流れ	-	-	「na]ga「ri☆
イトコ	いとこ	「i]Tu「Ku	-	「i]Tu「Ku
イノチ	命	「i]nu「Cji	「i]nu「Cji	「i]nu「Cji
ハダシ	裸足	「ha]rap「Pja:] (崎村はhadassa)	「ha]rap「Pja:]	ha「rap「Pja★
ハダカ	裸	「Fa]da「Ka	「Fa]da「Ka	「Fa]da[:「sic.]
ハタケ	畑(畠)	「pa]Te[:	「pa]Te[:	「Fa]te[:
ヒダリ	左	「pi]zja「i	「pi]zja「i	「Fi]zja「i
アカ	垢	「pI]Ngu★☆	「pI]Ngu★☆	「FI]Ngu★☆
ウス	白	-	-	「so:]su
オビ	帯(細紐)	「Ki]Cu「bi_?	「Ki]Cu「bi☆	「Ki]Cu「bi☆
クシ	櫛	Ku「sji (新);「sa]ba「Ki	「sa]ba「Ki	「sa]ba「Ki
ノド	喉	「nu]bI[:	「nu]bI[:	「nu]bI[:
マユ	眉	「mI]ma「ju☆	「mI]majo[:☆	「mI]ma「ju☆
アクビ	欠伸	「a]Ku「bi	「a]Ku「bi	「a]Ku「bi
アナタ	あなた	「na:]「mi	-	「na:]me★
アタマ	頭	「ha]ma「Cji,「Cu]bu「ru (頭蓋骨)☆	-	「ha]ma「Cji,「Cu]bu「ru (骸骨)☆
オトコ	男	「ji]N「nga☆	「ji]N「nga「☆	「ji]N「nga☆
コトバ	言葉	「ju]mI「Ta	「ju]mI「Ta	「ju]mI「Ta
コドモ	子供	「wa]ra「bI	「wa]ra「bI	「wa]ra「bI,「wa]ra「bI:]
オトナ	大人	「u]Fuc「Cu☆	「u]Fuc「Cu☆	「u]Fuc「Cu☆
オンナ	女(女子)	「u]na「ngu☆	「u]na「ngu「☆	「u]na「ngu「☆
コユビ	子指	-	-	<m>「Kwa]ju「bI☆
サトー	砂糖	「sa]Ta[:	「sa]Ta[:「	「sa]Ta[:

読み	項目	台司氏	富崎氏	大畑氏
シラガ	白髪	「sji」ja「ngI」☆	「sji」ja「ngI」☆	「sji」ja「ngI」☆
セナカ	背中	-	-	「na」nga「nI」☆
タノミ	頼み	-	-	「ta」N「mi
タバコ	たばこ	「ta」ba「Ku	「ta」ba「Ku	「ta」ba「Ku
ホーキ	箒	「po」:「Ki	「Fo」:「Ki	「Fo」:「Ki
キョーダイ	兄弟	ji「:」ri★,「ji」:	「kjo」:「de」:	「ji」:(,ji:riは他所で)
トシヨリ	老人	「wI」:c「Cu」☆;「wI」:mu「N	「wI」:c「Cu」☆;「wI」:mu「N	「wI」:c「Cu」☆;「wI」:mu「N
ナカユビ	中指	-	-	<m>「na」:ju「bi」:
オマエタチ	おまえたち	「da」:「kja」,「da」N「na」:☆	「da」:「kja」,「da」N「na」:☆	「da」:「kja」,「da」N「na」:☆

## ◎○●○~◎○○●△ [※]

イヌ	犬	「i」N「nga」:	!「i」N「nga」:	「i」N「nga」:
カミ	髪	「has」sa「ngI」:」☆	「has」sa「ngI」:」☆	「has」sa「ngI」:」☆
ソボ	祖母	!「a」N「ma」:	-	「a」N「ma」:
ニワ	庭	jaN「mE」:	-	「ja」N「mE」:
ハハ	母	!「a」N「ma」:(祖母の意が普)	-	!ok「Ka」:
カラス	烏	「ga」ra「sa」:」	「ga」ra「sa」:	「ga」ra「sa」:
ネズミ	鼠	「Ka」:「KI」:」(多); 「nI」zu「mja」:」☆	「Ka」:「KI」:;; !nI」zu「mja」:」☆	「Ka」:「KI」:;; 「nI」zu「mja」:」☆
ヒカリ	光	!「a」:「nga」i;「Fi」Ka「ri	「a」:ngai★;!Fi」Ka「ri	「a」:ngai★
ヒタイ	額	!me」:「Cja」:	-	「mE」:「Cja」:」☆
ハレモノ	腫物	!nI」bu「tu」:(tは有気)	!nI」bu「tu」:	「nI」bu「tu」:
フンドシ	褌	-	「sji」tawu「bi	「sji」Ta「ubi」★☆
アナタタチ	あなたたち	!na」:「Kja」:	-	「na」:「Kja」:
ワタシタチ	わたしたち(excl.)	!wa」N「na」:	!wa」N「na」:	「wa」N「na」:
ワタシタチ	わたしたち(incl.)	!wa」:「Kja	!wa」:「Kja	-

## ◎○○●~◎○○○▲

アゴ	あご	「u」Tunge「:」☆	「u」Tunge「:」☆	「u」Tunge「:」☆
オウシ	牡牛	-	-	「u」:」usji」☆
オヤユビ	親指	「uja」ju「bi」☆★	「uja」ju「bi」☆★	「u」jaju「bi」[sic.]
テンジョー	天井	「ti」Nzjo「:」	-	「ti」Nzjo「:」

読み	項目	台司氏	富崎氏	大畑氏
◎○○●○～◎○○○●△ [※]				
スズメ	雀	「ji」Ndu「ja」:	-	「ji」Ndu「ja」:
ミミズ	蚯蚓	「bi」:zja「ra」:	!bi」:zja「ra」:	「bi」:zja「ra」:
テノヒラ	手のひら	!ti」Nwa「Ta」:,!ti」Npi「ja」:	-	「tiN」wa「Ta」:,「tiN」Fi「ja」:
◎○○○●～◎○○○○▲ [ ? ]				
ムスコ	息子	!ji」NngaN「Ka (男の子)	!ji」NngaN「Ka (男の子)	「jiN」ngaN「Kwa (男の子一般)
◎○○○●○～◎○○○○●△ [※]				
スズメ	雀	!jiN」duN「nga」:	-	「jiN」duN「nga」:
◎○○○○●○～◎○○○○○●△ [※]				
ワカモノ	若者	-	-	「wa」:sa「N」mu「nu」: (pl.), 「wa」:sa「Nmu」N,nji「se」: